
来賓挨拶

厚生労働省大臣官房厚生科学課長
宮寄 雅則

第22回研究助成発表・贈呈式の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

まず、本日助成を受けられる皆様には心からお祝いを申し上げます。

ヘルスリサーチフォーラムは今回で20回目という節目を迎えられました。これも運営に当たってこられたファイザー・ヘルスリサーチ振興財団の皆様方のご努力とともに、選考委員の先生方や関係してこられた方々のご支援の賜物であり、感謝と敬意を表したいと思います。

本フォーラムが始まった20年前と言いますと、国では、新ゴールドプランやエンゼルプランを策定したときでして、すでに少子高齢化が大きな問題となっていました。その頃に比べ、医療の技術あるいはシステムは目覚しい発展を遂げ、平均寿命もさらに伸びて、そのこと自体は大変喜ばしいことですが、少子高齢化が進むことによって、労働力人口の減少による経済への影響、あるいは慢性疾患による受療、疾病の罹患率の増加、介護を必要とする方の増加など、難しい問題が生じてきています。

国としても健康寿命を延伸するとともに、QOLを向上させることが大きな課題となっています。そのような中で、ヘルスリサーチという領域は、医学だけでなく様々な領域の学問を国民のQOLの向上につなげていくものであり、ぜひとも発展させていただき、保健、医療、福祉に貢献していただきたいと考えています。

本年度、22回目の助成をお受けになられる皆様方が、ますます実りのある研究を実施し、今後のヘルスリサーチを支えてくださるものと確信しています。

さらに、本フォーラムも30年、40年と続けていただき、新たな研究成果を生み出し続けていただけることを期待しています。

最後になりますが、ファイザー・ヘルスリサーチ振興財団のますますのご発展と、本日参加された皆様のご活躍を心から祈念して、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。本日はまことにおめでとうございます。